

【10月23日（日）令和4年度総合防災訓練 視察】





計測震度計

震度（揺れの強さ）は、どう測るの？

震度（揺れの強さ）は、震度を測る計器（計測震度計）により観測を行っています。揺れの強さを計測部で測定したのち、処理部で計算して震度をもとめています。また、処理部では震度データの伝送も行っています。気象庁の震度階級は、震度5と震度6をそれぞれ弱と強にわけ、震度0、1、2、3、4、5弱、5強、6弱、6強、7の10段階となっています。

計測部で地震による揺れを感知し、感知した信号を処理部へ送ります。処理部は計測部が送った信号から震度を計算し、その結果を画面に表示するほか、電話回線で震度データを気象庁と大阪管区气象台へ送ります。大地震で万一電話回線が使えなくなっても、気象衛星経由でデータを送ることができるよう、アンテナを備えています。

処理部

計測部

計測震度計は、どれくらいあるの？

気象庁は全国670ヶ所に計測震度計を設置して、震度の観測を行っています。これに加えて、地方公共団体や防災科学技術研究所の設置した3705ヶ所の震度データも集め、合計4375ヶ所の震度データを、気象庁の発表する震度情報に活用しています。

● 気象庁

■ 香川県

▲ 防災科学技術研究所

香川県内には52ヶ所（気象庁3ヶ所、香川県17ヶ所、防災科学技術研究所32ヶ所）に設置しています。（令和3年10月28日現在）



